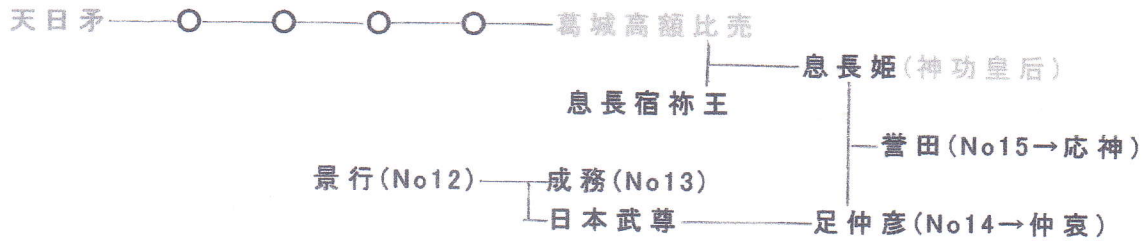


<海神社=かい神社と読まれ、祭神名によりワタツミ神社とも言われています>

<歴史>社伝によると、神功皇后が三韓征伐からの帰途、当地の海上で暴風雨が起って船が進めなくなったとき、皇后が綿津見三神を祀ると暴風雨が治まり、無事都に帰ることができました。その縁でこの地に綿津見三神を祀る社殿を建てたのが始まりといわれています。

かつて大鳥居周辺は砂浜であり、文字通り「海の神社」でしたが、1960年ころから埋め立てが行われて、大鳥居の前面は道路や漁港に様変わりしています。

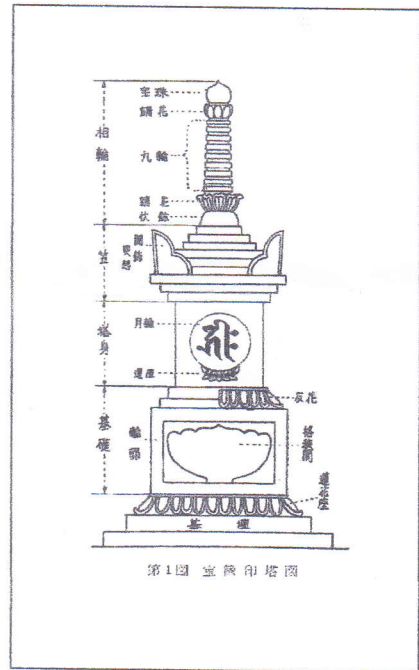


<遊女塚・宝篋印塔>

この塚は西国街道に面した丘上にありましたが、明治21年に山陽鉄道を敷設するとき邪魔になったので、塚を壊し今の共同墓地内に移されました。塚名に言われる遊女伝説は、いくつかあるものいずれも確かな拠り所はありません。

この石塔の形状は宝篋印塔と言われ、切石三段積の基壇を設け<礎石>を据え、<塔身>を置き、<笠>を載せ、その上に<相輪>が立てられています。塔高4.3メートルは関西に類例がないそうです。

塔身四方には金剛界の四仏の梵字を刻み、笠上の隅飾り突起四個八面には四天王と四菩薩の梵字を交互にあらわしています。基礎側面の四方には各三行、都合十二行の銘文があり、そこに塔は建武四年(1337年)に造立したことをあきらかにしています。



<五色塚古墳>

古墳域は、かつて松林として保護をうけていましたが、戦争が始まると油採取のため松が伐採され、戦後は畑地として開墾されました。また、山陽電鉄本線・JR神戸線が引かれたほか、古墳周囲にも道路が敷かれたため、周濠等も改変を受けています。墳形は前方後円形で、全長194メートルは兵庫県下で最大規模になります。(全国の規模順位では42位)。墳丘の格段には2200本の円筒埴輪が、巡らされ、格段の斜面には223万個・2,784トンの葺石が葺かれています(上段・中段の葺石は淡路島産と判明)。墳丘周囲には深い周濠・浅い外部周溝が2重で巡らされており、濠内には墳丘くびれ部左右・後円部北東の3か所に方形マウンドが設けられています。埋葬施設は**竪穴式石室**の使用が推定されています。

この古墳は墳形・出土埴輪から、4世紀末～5世紀初頭頃の築造とされ、被葬者は明石海峡やその周辺を支配した豪族首長ではないかといわれています。

